

海潮音

2020.6.1

「まだ諦めたりいけません！」。

八頭高書道部のメッセージが心にしみる。新型コロナウイルス感染拡大の影響で高校部活動のさまざまな全国大会が中止となる中、一緒に頑張ろうと書道作

品で生徒を励ましている◆本来なら鳥取県高校総合体育大会の真っ最中。多くの競技で代替大会が開かれるが、その先の全国総合体育大会（インターハイ）を見据えていた選手や集大成の場を失った3年生は、容易に受け入れられないだろう◆緊急事態宣言が解除され、街は緩やかに日常を取り戻し始めている。そうしたギャップもあって「なぜ自分の代ばかりが」と不幸な巡り合わせをうらむ人も

いるかもしれない◆人生の運不運はどこでどうなるか分からない。五輪の東京大会も延期となったが、40年前のモスクワ大会はボイコットで多くのアスリートが悲嘆に暮れた。「幻の代表」だった柔道男子無差別級の山下泰裕さんは、4年後のロサンゼルス大会で大げかに苦しみなからも悲願の金メダルを手にした◆バブル経済崩壊後の「就職氷河期」に回り道をして、今を力強く歩んでいる人がいる。嘆くだけでは何も始まらない。「屈しない限りそこに道はある」。八頭高書道部のメッセージは、コロナ時代を生きるみんなへのエールだ。

(今)

日本海新聞

令和2年6月1日掲載

(許可を得て掲載しています)